

中小企業地域資源
活用促進法に基づく

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

広島県三次市
が応援するふるさと名物

江の川水系がもたらす**自然の恵み**

- ◎ 鮎・鵜飼
- ◎ 霧の海
- ◎ 常清滝
- ◎ ピオーネ
- ◎ 三次の酒（日本酒・どぶろく）





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

広島県三次市

地域の
プロフィール



◇中国地方の中心部に位置する三次市。日本海に注ぐ「江の川」を本流として、神野瀬川、西城川、馬洗川などの支流が三次盆地の中央で合流し、広島県内に降る雨の約3分の1が集まります。古くから舟運が発達し、山陰と山陽を結ぶ文化・経済・交通の要衝の地として、歴史を刻んできました。

◇山陽側の広島・呉・三原・尾道・福山、山陰側の浜田・江津・大田・出雲・松江・米子などの各都市へ、ほぼ同距離の約50～80kmの位置にあり、大阪へ約250km、下関へ約250kmの距離圏にあります。中国縦貫自動車道、中国やまなみ街道（中国横断自動車道尾道松江線）をはじめ、中国地方の山陽・山陰を結ぶ各国道、県道、JR鉄道網などが本市で結節し、本市を中心として放射状に拡散する交通網を構成しています。

◇四季折々の自然美。豊かな水と穏やかな気候に育まれて生まれる食材。数多くの歴史遺産や文化財。城下町・宿場町として息づく伝統文化。鶺鴒や神殿入り（こうぞのり）など歴史と風土に根差した伝統行事。

◇三次市は、美しい自然と文化が息づくまちです。

江の川水系がもたらす自然の恵み

◇三次（みよし）の地名の由来は、「水（み）」と古い朝鮮語で「村」を意味する（すき）があわさって、「水村（みすき）」となり、その後（みよし）に転じたという説が有力です。

◇江の川水系は、豊かな漁場であることはもちろん、山陰と山陽を結ぶ舟運を原点として都市が発達し、大正初期より観光鵜飼が行われるなど、産業振興に寄与し、田畑を潤し、市民の生活とともに歩んできました。



◇江の川で育った大ぶりの「鮎」、三次の夏の風物詩「鵜飼」、秋から早春にかけて見られる「霧の海」、四季折々の美しい情景を見せる「常清滝」、寒暖差のある三次の風土に育まれた「ピオーネ」などの農産物、これらの農産物を原料とした「日本酒」や「どぶろく」などの「江の川水系がもたらす数々の恵み」。
それが、三次市のふるさと名物です。

地域資源を生かした取組例

◇「川のまち 三次」での鵜舟船頭体験や霧の海鑑賞ツアー、常清滝散策ウォーキングなどの体験型プログラムやツアー、新たな製品の開発、国内外への情報発信など、江の川水系がもたらす数々の自然の恵み・資源を生かした観光産業が展開されています。



◇贈答用として人気の「ピオーネ」は、ソフトクリームやお菓子、更にはワインなどの加工品としても活用されています。年間を通じてピオーネを味わうことができ、「ピオーネ」の更なる活用・ブランド化にもつながっています。

◇米と水にこだわった日本酒が、3つの蔵元で製造されています。顧客ニーズにあった魅力的な商品開発やプロモーション活動、新たな販路の開拓など、様々な取組が展開されています。



1

地域資源

◆ 「鮎」と400有余年の伝統を誇る「鵜飼」

江の川は、尺鮎と呼ばれる大ぶりの天然鮎の産地として知られます。新鮮な天然鮎は、塩焼きや背ごし、さらに鮎寿司やうるかなど、多彩なメニューで味わうことができます。

また、3つの一級河川が集まる巴橋付近では、潜水して魚を捕まえる鵜の習性を利用して天然鮎を獲る伝統漁「鵜飼」が毎年6月～8月に開催されます。三次の鵜飼は、戦国時代に毛利氏と攻防戦を繰り返し敗れた尼子氏の落武者が始めたとされており、江戸時代に三次藩初代藩主浅野長治公が改良を加え、藩の奨励や保護があって、現在の形に至ったといわれています。鵜匠が操る手縄の長さは全国で最も長い6.75m。鵜匠も世代交代して伝統の技が受け継がれており、平成27年4月には広島県無形民俗文化財に指定されています。鵜舟と遊覧船が併走する回遊方式により、広範囲の鮎を最大8羽の鵜がダイナミックに獲る様子を間近で楽しむことができます。中国から贈られた白い鵜が活躍し、三次の夏の風物詩「鵜飼」のPRの一助となっています。



2

地域資源

◆三次の自然が織りなす神秘の世界「霧の海」

秋から早春の早朝、市街地を流れる3本の川から立ち昇る川霧に三次盆地が覆われる「霧の海」を見ることができます。山々は海原に浮かぶ島々のように佇み、日の出とともに霧は色を変えて千変万化し、「霧の海」の様々な表情を堪能できます。

また霧の海を彷彿とさせる、三次の伝統的銘菓「泡雪」は、上品な甘さととろけるような食感が人気です。



主な地域資源

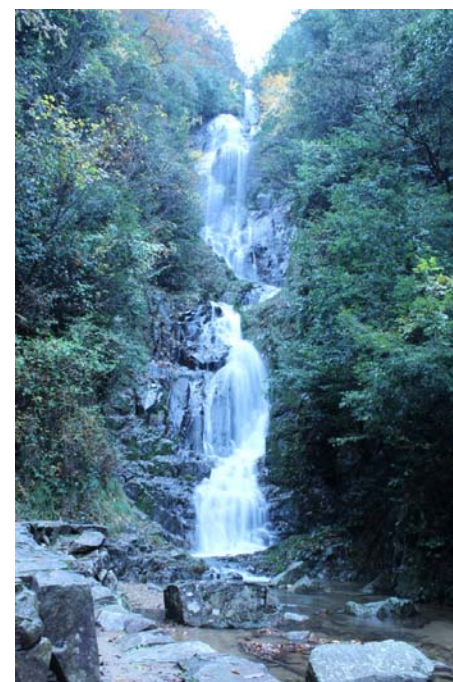
3

地域資源

◆日本の滝100選にも選ばれた名瀑「常清滝」

江の川水系の支川溪流部にある「常清滝」は、広島県で唯一「日本の滝100選」に選ばれています。落差126mもの滝が豪快に落ちる断崖を取り囲むようにして、ヤマモミジ、トチノキやコナラなどが自生し、山水画のような美しい景観を形成しています。

春は深緑を、夏は涼を求めて、秋には紅葉を楽しみ、冬には条件が揃えば凍った滝を見ることもでき、四季折々の表情を楽しめます。



4

地域資源

◆三次の自然に育まれた「ピオーネ」と「三次の酒」

寒暖差が大きい地の利と清らかな水に恵まれた三次。一度は食べたい、三次ならではの美味しい農産物がたくさんあります。

中でも、上品な香りととろけるような甘さが特徴の「ピオーネ」は、贈答用としても人気です。また、三次特有の気候風土に育まれた米から醸造された「日本酒」は、各方面から高い評価を得ています。さらに、「どぶろく」の製造に向けた準備も進んでおり、地域の新たな産品として期待されています。



市の取り組み

1

清流を守る

◆美しいかわづくり

江の川水系の豊富で清らかな水がもたらす様々な恵みを守るため、河川に堆積した土砂の撤去や、生い茂った樹木の伐採、生活排水対策の強化など、美しい河川環境の維持に取り組んでいます。また、市民が日頃から川に親しむことができるよう、親水空間の整備を行っています。

2

観光アクション

◆官民一体の観光アクションの展開

観光協会、商工会議所、商工会、市役所等による「オール三次観光推進チーム」を設立、取り組みの企画などを進めています。また、各種媒体を活用した情報発信、観光案内看板の整備、三次製品のブランド化・販路開拓、関係団体の支援など、観光産業への包括的な支援を行っています。



3

三次の酒で乾杯

◆三次の酒で乾杯

酒造業界やその他の関連産業が発展していくこと、郷土愛を醸成することを目的に平成25年9月、「三次の酒で乾杯を推進する条例」を制定しました。日本酒やワインなど、地元の酒の消費量を増やす機運の盛り上げに取り組んでいます。また平成27年6月には「山紫水明の郷・三次どぶろく特区」の認定を受け、小規模農家・事業者が、自ら生産した農産物等を原料とした果実酒・濁酒を製造しやすい環境づくりを進めています。

三次市ふるさと名物応援宣言

広島県三次市は、日本海に注ぐ「江の川」を本流として、神野瀬川、西城川、馬洗川などの支流が三次盆地の中央で合流し、広島県内に降る雨の約3分の1が集まるまちです。

江の川水系は、豊かな漁場であることはもちろん、山陰と山陽を結ぶ舟運を原点として都市が発達し、業振興に寄与し、田畑を潤し、市民の生活とともに歩んできました。



江の川で育った大ぶりの「鮎」、三次の夏の風物詩「鵜飼」、秋から早春にかけて見られる「霧の海」、四季折々の美しい情景を見せる「常清滝」、寒暖差のある三次の風土に育まれた「ピオーネ」や美味しい米などの農産物、その米を原料とした「三次の酒」などの「江の川水系がもたらす自然の恵み」。

それは、私たち三次市民の誇りであり、大切な宝物です。

「江の川水系がもたらす自然の恵み」をふるさと名物として応援することを宣言し、市民一丸となって大切に守り、育み、その魅力を全国に発信してまいります。

平成28年2月22日

三次市長 増田和俊